

外国語活動・外国語の指導力を高める「デジタル指導案」の開発

青木謙介（狛江市立狛江第三小学校）

概要：東京都狛江市立狛江第三小学校では、平成29年度・30年度、外国語活動・外国語の研究に取り組んでいる。「ALT等に頼る授業」から「教員が主体的に創る授業」へと意識を変革し、外国語活動・外国語の指導力を高めるために、Microsoft PowerPoint を使って、紙媒体の指導案をデジタル化した「デジタル指導案」を開発した。指導過程ごとに1枚のスライドにまとめ、主な学習内容・学習活動、動画・写真、指導上の留意点・ポイントに整理した。これをタブレット端末に取り込み、いつでも、どこでも、必要最小限の時間で自己研修することができるようにした。

キーワード：外国語活動・外国語、デジタル指導案、タブレット端末、教員研修

1 研究の背景

社会のあらゆる分野においてグローバル化が進展する中、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって重要である。新小学校学習指導要領では、中学年に外国語活動、高学年に外国語が位置付けられた。そして、平成30年度から移行期間に入り、各学年において段階的に実施されている。

さて、東京都狛江市立狛江第三小学校（以下、「本校」という。）では、平成29年度・30年度、狛江市教育委員会より研究奨励校の指定を受け、外国語活動・外国語の研究に取り組んでいる。これまでの本校の外国語活動は、英語教育推進リーダーの教員とALTが中心になって指導してきたため、多くの教員は外国語活動についての指導経験がほとんどないという状況であった。そこで、このような「ALT等に頼る授業」から「教員が主体的に創る授業」へと意識を変革し、教員一人ひとりの外国語活動・外国語の指導力を高める具体的な取組が必要であると考えた。

しかしながら、多様化する児童や保護者への対応、新たに取り組むべき教育の課題の増加、教職経験の浅い教員の増加等、教員自らが時間をかけて外国語活動・外国語の指導力の向上に努めることができるゆとりがないことが課題となっている。

表1は、平成29年度の1学期、本校の教員を対象とした「外国語活動の指導についての意識調査」において、外国語活動の指導についての自信度を質問した項目の結果である。

表1 外国語活動の指導についての意識調査の結果（回答数 13）

〔質問〕 外国語活動の指導について、どの程度自信がありますか。	
とてもよくできる	0人（0%）
よくできる	2人（15%）
どちらともいえない	3人（23%）
あまりうまくできない	5人（38%）
全くうまくできない	3人（23%）

「とてもよくできる」、「よくできる」と回答している教員は、わずか2人であった。これに対し、「あまりうまくできない」、「全くうまくできない」と回答している教員は8人であった。およそ60%（外国語活動の指導について手探り状態にいると思われる「どちらともいえない」と回答している教員3人を含めると、およそ80%）の教員は、外国語活動の指導について自信をもつことができず、不安や悩み等をかかえていることが分かった。

以上を踏まえ、外国語活動・外国語の研修を合理的・効果的に進め、教員が指導技術を身に付け、自信をもつことができる研修教材を開発することが必要であると考えた。

2 研究の方法

本校は、平成29年度の1年間、公益財団法人パナソニック教育財団（以下、「財団」という。）より、実践研究の助成を受けた。そこで、財団からの助成を基に、ICT 機器を活用し、本校での外国語活動・外国語の研究を通して作成した指導案をデジタル化した「デジタル指導案」の開発しようと考えた。

本校の研究推進委員会の中にデジタル指導案分科会を組織し、外国語活動・外国語の研究と並行して取り組んだ。

表2 研究の経過

研究の内容	デジタル指導案の開発について
4月 ・校内研究の組織づくり ・研究主題に関する基礎研究	意識調査の実施・集計 外国語活動の指導に関する
5月 授業（6年）	
6月 授業（6年）	
7月 成果と課題の整理	
9月 授業（4年）	デジタル指導案の実現に向けたタブレット端末の機能の検証・修正
10月 授業（3年）	
12月 成果と課題の整理	
1月 ・授業（3年） ・授業（5年）	
2月 授業（5年）	
3月 ・成果と課題の整理 ・次年度への展望	

3 研究の実践

(1) デジタル指導案について

英語でのあいさつ、導入のチャンツや活動等、各指導過程における指導の様子の動画や写真が貼り付けられており、それを基に指導の進め方や指導のポイントとなる指示・発問をイメージすることができる指導案が「デジタル指導案」である。外国語活動・外国語の指導についての研修を実施する時間がなかなか取れない状況下でも、実用性のある研修教材になると考えた。

(2) デジタル指導案の開発

財団から助成を受けて購入した最新のノートパソコンを活用し、デジタル指導案を開発した。

はじめは、Microsoft Word（以下、「Word」という。）を活用して、本校での外国語活動・外国語の研究を通して作成した指導案に各指導過程における指導の様子の動画や写真のリンクを貼り付けようと考えた。しかし、Wordの指導案だけでなく、それにリンクされている動画や写真もタブレット端末に保存されていなければならぬため、タブレット端末の容量を大幅に超えてしまう恐れがあった。また、指導案上のリンクをクリックして動画や写真を見るとき、それらが別のウィンドウとして起動するため、やや操作性が悪いところもあった。このようなことを勘案し、Wordでなく、Microsoft PowerPoint（以下、「PowerPoint」という。）で開発することに方針を変更した。

PowerPoint は、指導案に動画や写真をリンクとして貼り付けるのではなく、直接貼り付けることが可能である。そのため、指導案とそれにリンクされている動画や写真を同じタブレット端末に保存し、管理しなければならないという煩わしさとタブレット端末の容量を超える心配を取り除くことができる。また、動画や写真を見るとき、別のウィンドウとして起動することなく、そのまますぐに見ることができる。このような利点から PowerPoint を使って、デジタル指導案を開発することにした。

① Routine ①

【内容・活動】

◎ 簡単なあいさつ、やりとりをする。

- ・ あいさつをする。
Let's start our English class!
Good morning, [ALT], [HRT], 1, 2.
- ・ 簡単な質問に答える。
曜日 What day is it today?
日付 What's the date today?
天気 How's the weather today?
- ・ 英語の3つのルールを確かめる。
Rule 1 Listen carefully
Rule 2 Speak loudly
Rule 3 Enjoy together
- ・ 簡単な質問に答え、名札を受け取る。
[child's name]. How are you?



【留意点】

- ・ 授業をはじめる前に、“Clear your desk, please.” と呼びかけ、授業に集中して取り組めるようにする。
- ・ 指導者も児童も表情やジェスチャーを交えて、発話するようにする。

図1 PowerPointを使って開発したデジタル指導案の一部分

図1のように、デジタル指導案は、指導過程ごとに1枚のスライドにまとめ、4つの項目で整理している。

① 指導過程

本校での外国語活動・外国語の授業の指導過程^{注1}を表している。

② 主な学習内容・学習活動

本校の外国語活動・外国語の研究を通して作成した指導案を基に、主な学習内容・学習活動を端的にまとめている。

③ 動画・写真

指導している様子を動画や写真として直接貼り付けている。

④ 指導上の留意点・ポイント

本校の外国語活動・外国語の研究を通して作成した指導案を基に、指導における留意点やポイントを端的にまとめている。

PowerPointは、本来、プレゼンテーションの際に使われることが多いソフトウェアである。しかし、デジタル指導案は、スライドショーの機能を使わなくても十分活用することができるような仕組みになっている。

4 研究の成果

(1) 自己研修の教材としての貢献

外国語活動・外国語についての研修に時間を取れない状況においても、場所を問わず、いつでも、どこでも、必要最小限の時間で自己研修することができる教材として貢献した。

デジタル指導案では、動画や写真とともに、主な学習内容・学習活動、指導における留意点やポイントも1つのスライドで見られるため、指導案の紙面上ではなかなか伝わらない表情、ジェスチャー、声の抑揚等といった授業の流れをつくる指示や発問の仕方がよく分かる。教員は、それを真似したり、参考にして指導の工夫を図ったりすることに役立てることができた。

また、「授業の最初に子供たちの心をつかみたい」、「活動のとき、英語でどのように指示・発問すればよいかを知りたい」等、授業の指導場面を絞って活用することもできた。

そして、デジタル指導案は、タブレット端末に保存されているため、教室や職員室等、場所を問わず、いつでも、どこでも、自己研修することができた。実用性の高い研修教材として、価値のあるものになったと考える。

(2) 新たな研修教材の開発

2 学期、本校の教員を対象としたアンケートを実施し、「クラスルーム・イングリッシュの一覧があると便利である」といった意見・要望があがった。デジタル指導案分科会のメンバーと協議し、デジタル指導案の仕組みを生かして開発することにした。

図 2 のように、PowerPoint を使って、クラスルーム・イングリッシュ集を開発した。これは、

指導過程ごとによく使う表現を英語と日本語で整理し、英語の発音音声を手付けしてあり、スピーカーのアイコンをクリックすると英語の発音音声を聞くことができるようになっている。また、このクラスルーム・イングリッシュ集もタブレット端末に取り込み、デジタル指導案と同様、いつでも、どこでも、必要最小限の時間で活用することができるようにした。デジタル指導案の開発から、新たな研修教材が生まれた。

Routine ① —Name tag time—		
T/C	English	Japanese
T	Any volunteers?	手伝ってくれる人はいますか？
T	〇〇, please come here.	〇〇さん、こちらに来てください。
T	Hi, 〇〇. How are you today?	やあ、〇〇さん。調子はどうですか？
C	I'm great. How are you?	とても元気です。調子はどうですか？
C	I'm good. How are you?	元気です。調子はどうですか？
C	I'm all right. How are you?	まあ元気です。調子はどうですか？
C	I'm sleepy. How are you?	眠いです。調子はどうですか？
C	I'm tired. How are you?	疲れています。調子はどうですか？
T	Here you go.	はい、どうぞ。

図 2 PowerPoint を使って開発したクラスルーム・イングリッシュ集の一部分

5 今後の課題

紙媒体の指導案からデジタル指導案へと構成し直したり、デジタル指導案に貼り付ける動画や写真を授業とは別に撮影したり、タブレット端末にデジタル指導案を取り込んだりしたことには、大きな労力を費やした。デジタル指導案のフォーマットを準備し、主な学習内容・学習活動、指導における留意点やポイントを、授業を実施した教員が入力する。そして、デジタル指導案の体裁を整えたり、動画や写真を撮影・編集したり、貼り付けたりすることをデジタル指導案分科会のメンバーが行う。こうした役割を明らかにし、すべての教員で分担することによって改善することができると思う。

注

- 1) Routine①, Review (前時の復習), Today's goal (本時のめあて), Practice (練習), Activity (活動), Routine②の 6 つの段階により授業を計画・実施している。毎時間の授業で必ず行うこととして、Routine① (初めのあいさつ), Routine② (振り返り, 終わりのあいさつ) としている。

参考文献

- 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領解説 総則編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』, 開隆堂出版